

会 議 の 概 要

| | |
|------------------------|--|
| 1 会 議 名 | 平成30年度第2回宝塚市社会教育委員の会議 |
| 2 開 催 日 時 | 平成30年7月17日(火) 18時00分～20時00分 |
| 3 開 催 場 所 | 宝塚市役所 2-3会議室 |
| 4 出 席 委 員 [■出席 □欠席] | ■橘委員 ■清水委員 □林委員 ■薄田委員 ■大西委員 ■温井委員 ■河野委員 ■西本委員 ■伊藤委員 □エバンズ委員 ■板東委員 |
| 5 傍 聴 者 数 | 0 人 |
| 6 公 開 の 可 否 | ■ 可 □ 不可 □一部不可 |
| 7 議 題 及 び 結 果 の 概 要 | ◆報告 (1)平成30年度阪神北地区社会教育委員協議会総会の開催結果について (2)平成30年度兵庫県社会教育委員協議会総会の開催結果について ◆議題 (1)「地域課題解決のための公民館学習及び社会教育のあり方について」について |

平成30年度 第2回社会教育委員の会議 議事要旨

1 報告事項

- (1) 平成30年度阪神北地区社会教育委員協議会の開催結果について
平成30年6月5日(火)開催の報告
- (2) 平成30年度兵庫県社会教育委員協議会総会の開催結果について
平成30年7月4日(水)開催の報告

2 議題

- (1) 「地域課題解決のための公民館学習及び社会教育のあり方について」について
(事務局)

平成29年8月24日付け、宝塚市教育委員会諮問第2号で受けたうち、地域課題解決のための公民館学習についての答申(案)としている。5月18日に第1回社会教育委員の会議を開催し、会議での意見を基に6月に小委員会を開催し、答申(案)の作成に取り組んでいる。今回は、修正した内容を説明した。

(委員)

引用文献・資料に追加した柳与志夫、南学、服部英二、角田英昭の文献・資料は、参考にはしたが、引用はしていないので、引用文献・資料の後に参考資料として記載した方がよい。また、答申のまとめの4つめ「・一人ひとりの学びが地域課題の解決につながる取組がされること。」だが、「・一人ひとりの学びが地域課題の解決につながる取組がなされること。」へ変更、同じく5つめ「・公民館から市内の各地域へアウトリーチを含む事業展開が期待できること。」も「・公民館から市内の各地域へアウトリーチを含む事業展開がなされること。」に変更した方がよい。

(委員)

答申のまとめの9つめ「社会教育主事の配置と育成へ向けて積極的に取り組むこと」とあるが、指定管理で民間の業者に任せただけの場合、社会教育主事の配置と育成は民間の業者が取り組むのか、市が取り組むのか。

(事務局)

指定管理業者が取り組む。現在、応募している民間業者のうち大半の業者が、社会教育主事資格所有者を雇っている。ただし、市としても管理者として、社会教育主事資格所有者の配置を対応していく予定である。

(委員)

公募は終わっているのか。また、答申はどのように反映されるのか。

(事務局)

公募期間は終わっている。平成29年4月の意見書で出た7つの条件と答申の審議中に

あがった意見を基に決定する。また、業者が決定した後も事業展開を進める方向において、今回の答申は反映する。

(委員)

答申のまとめの3つめ「子どもから高齢者までの多世代の市民の学習活動が幅広く行えること。」とある。現在も子どもが自習しており、高齢者は新聞や本を読んでいるが、そういう意味ではないのか。

(事務局)

広い意味で記載している。現在もサマースクールと称して、高齢者が子どもや保護者を対象に講座を行っている。こういった多世代の交流の試みを広げていきたいと考えている。